

## F1 環境・景観 / 自然再生・共生

### 水辺の生物多様性護岸の提案

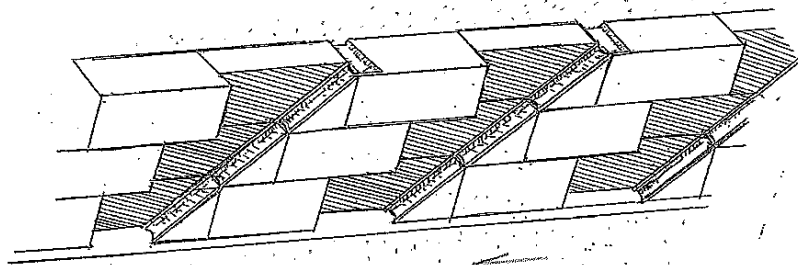
近年、都市郊外部は住宅地となりホタル、カエル等の生物が減少している。下水道の整備が図られ住宅地の水路等の水質が向上し、カワニナ等の貝類も生育しているが、水路はコンクリート護岸で固められ生物の生育に適していないのが現状である。河川では多種多様な多自然型川づくりが行われているが、都市水路等には施工されていない。

そこで、水辺の生物多様性護岸として、水路等の護岸にスロープ付きの布積みブロックを採用して、魚類、昆虫、両生類など生態系に配慮した護岸ブロックを提案する。

ブロックは、ブロックの一部分に凹形の坂路を付け連続性のある土系の覆土坂路ができ植物も繁茂する。この坂路により、水深部は魚類、水生昆虫等の隠れ場になり、陸上部は河岸の緑化が図られ地這性の昆虫、両生類等の坂路になり天敵から身を守る安全な坂路になる。

また、出水時には護岸凹凸による粗度の増加で河岸は流速が低下し魚類や水生昆虫の棲家となりうる。坂路の凹形内に土砂で連続性を作るとは、ホタル等昆虫の蛹前の安全通路や蛹化場となりうる。

護岸は、垂直積みから控付ブロックにすると勾配護岸まで対応が可能で、坂路間隔を離すことで緑化密度が調整できる。坂路逆向きブロックを用いると、左右岸は対称の緑化デザインにすることができる。



概略図